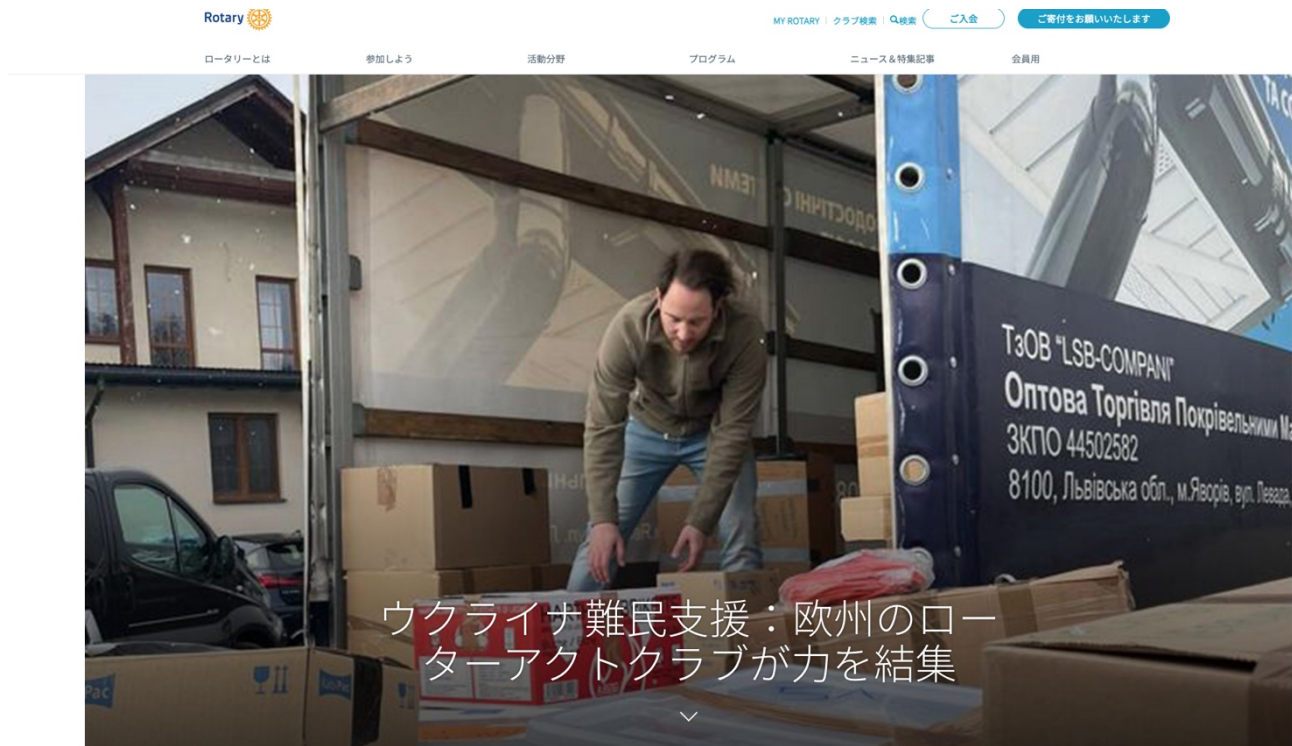


# 第 3 地域ロータリー財団チームニュース第 8 号

## ウクライナ難民支援：欧州のローターアクトクラブが力を結集



2022 年 2 月下旬、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、イリーナ・ブシュミナさんは数時間のうちに、キエフの自宅から逃げ出しました。姉と生後 3 カ月の甥とともにオーストリアのウィーンに向かい、途中、ロータリー会員の家に身を寄せました。Kyiv City ローターアクトクラブの会員で、ウクライナの地区ローターアクト代表を務めるブシュミナさんは、支援を受けたことをきっかけに、より大規模な救援活動を行うことを決意しました。現在、彼女が作成したオンライン・プラットフォームを通じて、数千人のウクライナ難民のためのシェルターを見つけることができるようになっています。

欧州各地で、ローターアクト会員がデジタルツールを使って情報を共有し、ウクライナの戦争で被災した人びとを支援するために連携しています。世界 40 カ国以上のクラブが加盟する欧州のローターアクト多地区合同情報組織（通称「[Rotaract Europe](#)」）を通じてグローバルネットワークを活用し、被災地のニーズに合った支援を行ってきました。

戦争開始から間もなく、Rotaract Europe 会長であるクリスティアン・ライトナーさん（Linz ローターアクトクラブ会員）は、ウクライナの人びとを支援するプロジェクトが既に実施されていることを知りました。オーストリアの Klagenfurt-Wörthersee ローターアクトクラブが中心となり、Rotaract Europe のウェブサイ

My Rotary にサインインして、ウクライナの情報を参照してください。

トから情報を集め、5 台のバンと車に救援物資を積み込み、夜通しポーランドとウクライナの国境に届けていたのです。また、現地の地元のローターアクトクラブが救援物資を配布していました。

「ロータリーのネットワークがいかに早く物事を実現できるかを実感した」とライトナーさん。侵攻開始から 1 週間以内に始まった何十ものローターアクトの活動が行われていることを知り、ローターアクトクラブとロータリークラブ、地区間のコミュニケーションを調整し、協力関係を促進する上で、ローターアクトが重要な役割を果たすと実感しました。

また、Rotaract Europe では、難民やボランティアのための情報を「United for Peace」(平和のための団結)というウェブページにまとめています。ブシュミナさんは、「Spaces for Ukraine」という宿泊場所探しに特化したプラットフォームを立ち上げるため、このページに情報を掲載し、難民とホストファミリーを結び付けるためのフォームを作成しました。このページでは、近隣諸国のプロジェクトに関する最新情報、難民が利用できる無料の鉄道、バス、航空輸送に関する情報、国境で人びとを助けるための情報を提供しています。また、必要な物資のリストや寄付・寄贈の方法も紹介されています。

ライトナーさんは次のように話します。「ローターアクトクラブは、(このウェブページから)ウクライナや周辺地域で何が起きているかを把握し、どのようなプロジェクトを実施できるかを定めることができます。ロータリー会員によるつながりの構築と協力を促進する力になりたいと感じています」

ライトナーさんや Rotaract Europe のほかのリーダーたちは、欧州各国のローターアクト代表と毎週 Zoom 会議を開き、アイデア交換やプロジェクトの最新情報の共有を行っています。このような会合が、より良いコミュニケーションと連携に役立っているとライトナーさんは話します。

1988 年にクラブの連合体として発足して以来、Rotaract Europe は、国境を越えてローターアクト活動に関する情報を共有することに重点を置いてきました。しかし、ウクライナの人びとへの支援はこれまでとは異なると、ライトナーさんは述べます。「これまでよりもずっと積極的に取り組んでおり、ローターアクターの情熱とエネルギーが、私たちのモチベーションを高めてくれています」

By Ryan Hyland

## 【ウクライナ危機へのロータリーの対応】

ロータリー財団は、ロータリー地区が実施している救援活動を支えるために世界中のロータリー会員や一般の方々が寄付することのできる正式な窓口を設置しました。財団は、その主な窓口として災害救援基金を指定しました。

多くの方々からの温かいご支援のおかげで、現在までに 1,040 万ドル以上のご寄付がこの基金に寄せられています。この資金は、災害救援補助金を申請するロータリー地区に配分され、水、食料、シェルター、医薬品、衣服といった救援物資を含め、この危機による難民や被災者の支援に利用されます。

現在までに、ウクライナでの戦争による被災者支援のために 64 件の災害救援補助金(総額 1,799,873 ドル)が授与されています。



## ウクライナでの戦争に関するロータリーの声明



国際ロータリーとロータリー財団は、「ウクライナで続いている人権危機と人道危機、特にロシア連邦による人権侵害と国際人道法違反の報告」に深刻な懸念を表明するという点において、国連総会を支持します。

世界的な人道支援団体として、ロータリーは紛争の根本的な原因に取り組むことによって平和構築に積極的に取り組んでいます。

ロータリーは、即座の停戦とウクライナからのロシア軍撤退を求める最近の国連総会決議を支持します。これは、対話と紛争解決を通じた平和の推進に対するロータリーの強いコミットメントと一致しています。

ロータリーは、国際的な救援コミュニティのパートナーたちとともに、戦火からの避難を余儀なくされた 1,000 万人以上のウクライナ難民に援助を提供するために活動しています。

**国際ロータリー理事会**

**ロータリー財団管理委員会**

2022 年 4 月 26 日

\*\*\*\*\*

## ロータリー自動定期寄付の推進を。

世界各地で変化をもたらす財団プログラムを実現するために大きな力となることができます。その方法の一つとして、ロータリー財団の自動定期寄付プログラムの利用を会員に奨励することができます。

昨年には、ロータリー会員が奉仕プロジェクトを実施して地域社会に変化をもたらすために、ロータリー財団から 2,000 件以上のグローバル補助金が授与されました。ロータリー定期寄付プログラムでは、寄付がクレジットカードを通じて銀行から自動的に引き落とされるため、送金手続きが不要であり、簡単かつ安全な方法で財団をご支援いただけます。

ご寄付の頻度は「毎月」「四半期に一度」「毎年」からお選びいただけます。My.rotary.org/rotary-direct からご利用をお申し込みいただけるほか、電話でもお申し込みいただけます。

(TEL : 03-5439-5803)

自動定期寄付では、財団での手続きにかかる時間と管理運営コストを抑えるというメリットもあるほか、定期寄付によるご支援を通じて大きなインパクトをもたらすことができます。

昨年度には:

- 22,870 人の会員より 1,040 万米ドルが寄付されました。
- 平均寄付額は 455 ドルでした。
- 定期寄付の 76%は年次基金(シェア)を支援するものでした。
- 定期寄付の 17%はポリオプラスを支援するものでした。

詳しくはマイロータリーの中の資料をご参照ください。



**奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために**



## 【日本のロータリー財団 2022-2023 目標】

2年余に及ぶ新型コロナウイルスの影響で、社会もロータリー活動にも大きな変化が生まれました。その中で日本のロータリークラブの皆様には、ロータリー財団への寄付、人道奉仕活動を継続していただき、誠にありがとうございます。

その中で、あらためて、ワクチンの重要性を再認識しました。ロータリー財団の最も重要なプロジェクトは、「ポリオ根絶」であり、ワクチン接種の継続こそが根絶への鍵であります。達成まであと少しです。各地区で、10月24日の世界ポリオデーにイベントを企画、実施してポリオ根絶にご協力の程宜しく願います。

さて、日本でも会員数の減少する中、ロータリー財団への寄付額を増加するには、大口寄付を増やす、恒久基金、冠名基金など、多様な寄付を皆さんに知っていただき、推進することや、ロータリアン以外の個人やパートナー、企業にイベントや、プロジェクトを通じて寄付をしていただくことが重要だと思います。世界ポリオデーなどのイベントやプロジェクトで地域の人々やパートナーと一緒に活動し、認知度の向上に努めていただきたいと思います。新しく加わった7つの重点分野「環境」は各地域で活動している人々や団体が多く、パートナーとして協働しやすい分野ではないかと思えます。

ロータリー財団は、企業で言えば、財務と企画部門であります。マーケティングと広報部門の公共イメージ向上をロータリー公共イメージコーディネーター(RPIC)と、会員増強をロータリーコーディネーター(RC)と協働し貢献していければと願っています。RRFCへのお問い合わせ、ご相談をお待ちしております。

次年度の日本の目標を次の通りといたします。

■ 年次基金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人当たり150ドル</li> <li>・年次基金寄付ゼロクラブゼロ達成を継続する</li> <li>・Every Rotarian Every Year(年次基金への寄付)の推進</li> <li>・ポール・ハリス・ソサエティの推進</li> </ul>
■ ポリオプラス基金	・1人当たり30ドル(1,500ドル以上の寄付をしたクラブには、感謝状が贈られます。)
■ 恒久基金	・冠名基金を各地区1件以上設立
■ 大口寄付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付の種類にかかわらず、1万ドル以上のご寄付を日本で100件</li> <li>「大口寄付 0地区」ゼロを目指す</li> <li>・AKSを日本全体で10名増やす。中期目標として、2~3年で「AKS 0地区」ゼロを目指す</li> </ul>
■ DDF の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区期末DDF残高ゼロを目指す</li> <li>・DDFの20%をポリオプラスへ寄贈</li> <li>・ロータリー平和センター、7つの重点分野への寄贈</li> </ul>
■ 奉仕活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界ポリオデーにイベント企画、実施</li> <li>・グローバル補助金・地区補助金の活用の促進</li> <li>・ロータリー平和フェローシップの推進</li> </ul>

### 【ロータリー財団 世界の目標】

年次基金	1億3,500万ドル
ポリオプラス基金	1億5,000万ドル(ゲイツ財団からの上乗せ含む)
恒久基金	1億ドル(2025年までに20億2,500万ドル)
その他の基金	4,500万ドル
<b>全体</b>	<b>4億3,000万ドル</b>

\* 次年度日本のR財団目標は上の通りですが、行動目標として、10月24日の『世界ポリオデー』での地区単位あるいは複数の地区で合同イベントの開催を企画していただきますようお願いいたします。詳しくは、前田直俊 第3地域 EPNC、四宮孝郎 ARRFC、

吉原久司 ARRFC、駒井英基 ARRFC、永田壮一 RRFC までご一報ください。

## 【寄付ゼロクラブゼロ】

地区別年次基金寄付ゼロクラブ数

2022年4月22日現在

地区	クラブ数	地区	クラブ数	地区	クラブ数
2500	0	2620	10	2740	8
2510	5	2630	2	2750	6
2520	7	2640	10	2760	0
2530	4	2650	0	2770	4
2540	12	2660	2	2780	7
2550	5	2670	6	2790	1
2560	1	2680	3	2800	3
2570	0	2690	8	2820	0
2580	1	2700	6	2830	5
2590	0	2710	2	2840	6
2600	2	2720	6	合計	163
2610	17	2730	14		

地区内の年次基金寄付ゼロクラブの確認は、月次寄付レポートをご参照ください。※通常、ご寄付から約2週間後にレポートへ反映されます。

《My ROTARY にログイン→「ロータリー財団」にカーソルを当てて、表示されるメニュー内「各種レポート」→「地区のレポート」→「寄付&認証」の「レポートを見る」→月次寄付レポート》

\*各地区財団委員長は上の要領でゼロクラブを確認することができます。  
また、前回のR財団チームニュース7号に掲載いたしました寄付ゼロクラブ(2021.2.22)は361クラブでしたので、2ヶ月で200クラブの寄付がありました。  
皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 【最近のポリオ発症数】

### 【野生型ポリオウイルスによる症例数】

掲載サイト: [GPEI ウェブサイト\(英語\)](#)

		2022年 1月1日～ 3月22日	2021	2020	2019
常在国	パキスタン	0	1	84	147
	アフガニスタン	1	4	56	29
非常 常在国	マラウイ	0	1	0	0
世界合計		1	6	140	176

## 【ロータリー平和フェローの推薦スケジュール】

《スケジュール》

～5月15日 ～5月 9日	・候補者が <a href="#">オンライン</a> で申請書を提出する。 ・地区ロータリー平和フェローシップ小委員会委員長と推薦者(いる場合)が、 <a href="#">推薦に関するオンライン研修</a> (必須)を完了する。
5月15日～	・ロータリー平和フェローシップの職員が、書類を確認し、不備のない資格のある申請書を、該当地区に振り分ける。 (委員長の登録がなく、他の推薦者も研修を完了していない地区を指定した申請書は、他地区または資格のある学友に振り分けられ、その地区に推薦依頼は送られません。)
6月1日～7月1日	・候補者との面接と地区の推薦について、 <a href="#">オンラインフォーム</a> に入力・送信を完了する。 ※面接や推薦などに対応できない場合は、他の地区や学友に振り分けることもできますので、早急にお知らせください。
7月5～12日	・地区の承認を受けた候補者の書類修正期間
11月	・候補者と推薦地区に結果が通知される

\* 2023 年ロータリー平和フェローシップの候補者が申請書を提出する締め切りは 5 月 15 日です。すでに連絡を取り合っている候補者がいる場合、申請書を開始しているかどうかご確認ください。

## 【地区別寄付報告】

2640	1,638	104.43	171,057.88	17,418.19	23,588.45	3,150.00	215,214.52	90%
2650	4,292	161.98	695,211.33	100,162.43	41,739.49	840.00	837,953.25	97%
2660	3,455	180.87	624,895.22	179,314.57	70,309.09	20,012.84	894,531.72	113%
2670	2,890	94.96	274,446.20	50,071.78	31,136.36		355,654.34	120%
2680	2,585	134.18	346,857.31	44,106.61	66,965.51	5,419.05	463,348.48	109%
2690	2,897	131.84	381,938.51	69,493.73	39,090.91	4,095.00	494,618.15	87%
2700	3,038	87.89	267,020.45	21,130.83	86.84	1,050.00	289,288.12	102%
2710	3,089	132.74	410,038.96	76,998.57	75,115.69		562,153.22	110%
2720	2,316	91.09	210,976.01	18,153.68	13,545.23		242,674.92	106%
2730	2,311	54.54	126,043.76	23,169.03	7,450.00	1,050.00	157,712.79	105%
2740	2,073	67.67	140,283.31	18,691.40	108,150.00		267,124.71	157%

財団室ニュースで前年度同月までの寄付額が提示されています。

左から、地区名、会員数、一人当たり年次基金、年次基金、ポリオプラス、恒久基金、その他の基金、合計寄付額(黄色)、前年度同月比(オレンジ色)。

第3地域は11の地区がありますが、8地区で前年同月より寄付金をたくさんいただいています。(感謝！)

また、2740地区の恒久基金の寄付額は10万ドルを超えています。たくさんのご支援に心より感謝申し上げますとともに目標達成のため引き続きご協力をお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

### 2021～2022年度 日本のロータリー財団目標

- \* 年次基金 1人当たり150ドル(日本全体1,350万ドル)  
年次基金寄付ゼロクラブゼロ達成を継続する。  
**Every Rotarian Every Year(年次基金への寄付)の推進**  
**ポール・ハリス・ソサエティの推進**
- \* ポリオプラス基金 1人当たり30ドル(日本全体270万ドル又、1,500ドル以上のクラブに財団感謝状贈呈)
- \* 恒久基金 冠名基金を各地区一件以上
- \* 大口寄付 寄付の種類にかかわらず、1万ドル以上の寄付を日本全体で100件  
AKSを日本全体で10名増やす。  
中期目標として、2～3年で「AKS 0名地区」ゼロを目指す。
- \* DDFの活用
  - ・DDFの20%をポリオプラスへ寄贈  
(DDFの20%をポリオプラス基金へ寄贈した地区と、1500ドル以上の寄付をしたクラブには、ロータリー財団から感謝状が贈られます。)
  - ・ロータリー平和センター、重点分野への寄贈。  
(日本ロータリー平和センター基金(E11695)の累計が、150万ドルに達すると毎年この基金からロータリー平和フェロー1名を支援できます。)
  - ・各地区がDDFを使い切る。
- \* 補助金活動 グローバル補助金・地区補助金の活用の促進  
ロータリー平和フェローシップの推進

\*\*\*\*\*

### ロータリー財団地域コーディネーター、ロータリー財団地域コーディネーター補佐の役割

- \* 年次基金への寄付の重要性について地区リーダーを通じて、クラブに伝える。
- \* ポリオ根絶コーディネーター(EPNC)と協力して、クラブへポリオ寄付を推進する。
- \* 地区リーダーと協力して年次基金への寄付を推進する。
- \* 地区リーダーと協力して、グローバル補助金・地区補助金への参加を促す。
- \* ポリオ根絶・ロータリー平和センター・重点分野などの財団活動の周知を図る。
- \* 地区の財団活動への支援を行う。
- \* E/MGAと協力して、恒久基金・大口寄付の推進を図る。



毎年10月24日は世界ポリオデーです。次年度第3地域で多地区合同でも地区単独でも構いませんが世界ポリオデーに向けたイベントの企画を募集します。ご参加のほどお願いいたします。ご提案がありましたら [sochan0001@me.com](mailto:sochan0001@me.com) までご連絡ください。

## 【お知らせ】

### 大口寄付／恒久基金 入門セミナー 「ロータリーの重点分野とポリオ根絶活動への支援」

- 2022年5月9日(月)17:00～18:00 モデレーター:第3地域 E/MGA 佐藤 芳郎
  - ・地域社会の経済発展のための大口寄付推進計画委員会委員 飯村 慎一
  - ・第1地域ポリオ根絶コーディネーター 高柳 育行
- 2022年5月10日(火)17:00～18:00 モデレーター:第2地域 E/MGA 杉岡 芳樹
  - ・環境のための大口寄付推進計画委員会委員 野口 英一
  - ・第2地域ポリオ根絶コーディネーター 伊藤 雅基
- 2022年5月11日(水)17:00～18:00 モデレーター:第1地域 E/MGA 中谷 研一
  - ・平和のための大口寄付推進計画委員会リエゾン管理委員/ロータリー財団管理委員 三木 明
  - ・第3地域ポリオ根絶コーディネーター 前田 直俊

参加対象:地区ガバナー、地区ガバナーエレクト、地区ガバナーノミニ、地区財団委員長、地区財団委員会委員(経験年数の浅い方も歓迎します)、そのほか関心のある会員

※ 各日でテーマが異なりますので、複数日の参加も可能です。本セミナーのご案内や参加申込書は、各地域 E/MGA より担当地区へお送りします。詳細は、ご案内をご覧ください。

## 【地域活動】

4/28 2680 地区・地区研修・協議会:講演(RRFCの役割)永田壮一

5/15 2690 地区 ロータリー財団セミナー:RRFC 永田壮一

6/26 2730 地区 クラブ活性化ワークショップ:RRFC 永田壮一

## 【2021TRF News 5月号より】

先日届いた TRF News には、以下の情報が詳しく記載されています。地区財団委員長およびガバナー、ガバナーエレクト はご確認ください。

- \* 地区補助金の報告書の記載方法
- \* グローバル補助金-奨学金申請留意事項
- \* グローバル補助金を受領する銀行口座の提出
- \* ロータリー平和フェロー推薦者の研修の概要

## 【あしがき】

ロシアのウクライナ侵攻開始から2ヶ月余りが経ちましたが、戦果は収まる気配を見せず、人道的に目を覆いたくなるような光景をテレビで見るにつけ無力感に覆われます。現地ウクライナや近隣の国のロータリークラブやローターアクトクラブが積極的に人道支援を展開し、ウクライナ救援基金も多く集まったようです。1000万人近くが難民となり近隣の国に流入していると聞き、ロータリーの支援体制もクラブ単位、地区単位で形として現れているようです。熊本東南ロータリークラブでは2231地区ポーランド・ジェシェフRCを介し衛生用品を送りました。

さて、気になるのがロシアのロータリークラブです。1990年にロシアにロータリークラブができ、サンクトペテルブルグやモスクワにもロータリークラブがあると聞いています。ロシアのロータリアンは一体どのような気持ちで今回の侵攻を見ているのでしょうか。そして第二次世界大戦前のような日本のロータリアンが辛酸を舐めた時と同じ状態にあるのでしょうか。紛争地域や戦争地域でのロータリーの立場、役割はイデオロギーによって左右されないはずですが、ロシアのような独裁政治の試みに対して私たちは声を上げることができないのは悲しい限りです。

(永田壮一)

### 第3地域ロータリー財団チーム

RRFC	永田壮一	E/MGA	佐藤芳郎	EPNC	前田直俊
ARRFC	四宮孝郎				
ARRFC	吉原久司				
ARRFC	駒井英基				

文責:永田壮一